

令和4年度第3回青森市社会教育委員会議 定例会議 会議概要

- 1 日時： 令和5年3月29日（水）13時30分～15時00分
  - 2 会場： 教育研修センター 5階 大会議室
  - 3 出席者： 棟方梢議長、青木敦子委員、石澤千鶴子委員、伊藤尚三委員、大鷹依子委員、小笠原秀樹委員、滝口小百合委員、長尾信委員、米田学委員
- 事務局： 教育部長 小野正貴、教育次長 大久保綾子
- |               |   |      |
|---------------|---|------|
| 文化学習活動推進課長    | ： | 杉山潔  |
| 参事・文化遺産課長事務取扱 | ： | 葛西俊一 |
| 中央市民センター館長    | ： | 奥崎和彦 |
| 市民図書館長        | ： | 村上泰子 |
| 指導課長          | ： | 角田毅  |
| 浪岡教育課長        | ： | 石村淳  |

#### 4 次第

(1) 議題

- ①令和5年度社会教育関係事業（教育委員会所管）について

(2) その他（報告）

- ①学校運営協議会設置校の拡充について
- ②人事異動の報告について

#### 5 主な質疑応答、意見等

(1) 議題①令和5年度社会教育関係事業（教育委員会所管）について

＜地域学校協働活動推進事業、コミュニティ・スクール推進体制構築事業＞

・地域学校協働活動とコミュニティ・スクールは車の両輪にたとえられ、どちらも必要という話がある。青森市がコミュニティ・スクールを推進していくにあたり、この2つの事業を担当する（参加する）人は大部分が別になると思うが、双方がお互いに何をしているのか、何を目的にしているのかなど共通理解を持てるような事業があるといい。

＜学校施設開放事業＞

・今年から教育委員会で受付になったが、学校でやってる鍵の受渡や打合せなども教育委員会でやることになるのか。  
⇒団体登録のみ教育委員会で受付、実際の利用についてはこれまで通り団体と学校で打合せしながら進めることになる。部活動クラブ化や地域スポーツクラブなど学区の括りではない団体が多くなっており、これまでの要件が時代にそぐわなくなってきたため、見直しを行ったもの。

＜成人式開催事業＞

・1月の「はたちのつどい」に来賓として参加した。各会場の新成人が企画運営し主体的にや

っている点、地元との関わり合いを大切にしている点、中学生が先輩をお祝いする姿勢など分散開催で良かったと感じる。学校はこれから地域にどう関わっていくか、地域にどう貢献していくかというスタンスで教育課程を組んでいく必要があるため、そういった点からも良かった。

- ・普段子どもたちがどういう風に成長しているのか知る事がない中で、成人式に参加し、成長を地域で共有できるのはよいと思った。久々に出会える、再会できる場を地域で持ち続けることは重要だと思う。中学校を核として地域で子どもを育てるため、奉仕してくれる人たちとうまく組み合わせてやってほしい。

#### <棟方志功サミット開催事業>

- ・予算が決まってから改めて詳細を決めていくとのことだが、現状での計画などあるのか。生誕地として盛り上げて行って欲しい。
- ⇒今後、新市長に内容を説明し、進めていくことになるが、基本的には基調講演や首長同士の情報交換会などを考えている。

#### <その他>

- ・昔のように放課後に子供と一緒に遊んであげたり、補習授業をしてあげたりするような先生がいればいいと思っている。そういった先生がいた場合、教育委員会はどのように対応するのか。
- ⇒部活動の地域移行に伴い、一緒にやりたいか学校の先生に聞いたところ、熱意のある先生はいる。また、空いている会議室を自習室として使わせたりもしている。
- ⇒小学校でクラブをやっているところは少なくなっており、中学校から部活動をやる生徒も減っている。中学校のクラブ化に合わせ、小学生も参加でき、そのまま中学校に上げられるような仕組み、居場所づくりを考えていきたい。
- 先生の中には部活動をやりたくて先生になった人もいる。国では兼務で学校外の活動をしていても良いとなっているので、そういった形で活動を続けていく人もいる。
- ⇒先生のワークライフバランスも大事である。自分の家庭や生活がままならないと他の人のサポートも難しいと思うので、事務量を減らしたり、先生がやらなくてもいい仕事は外部に任せるなど、先生が力を発揮できる仕組み作りもしてほしい。
- ・母親も働いている人が多く、親子で読書する時間が減っているのではと感じている。読書は生きる力になるので、家庭での読書を促す方法がないかと思っている。市民センターで読み聞かせを開催してもなかなか人も集まらない。小さい頃の読書体験がないと国語力は減ってしまうので、親子の読書時間を設ける方策について図書館と協力していきたい。
- ・部活動の地域移行は学校では会えない大人や子どもとも交流できるので良い取り組みと思っている。ただ、以前であれば学校で気軽に見学などできハードルが低かったが、地域クラブとなるとハードルが高く感じる。学校から子どもに説明したり、気軽に見学に行けたりする体制は整っているのか。また、外部クラブだと金銭面でもハードルが高くなるので、補助が

出るなど、気軽に参加できるクラブが地域にたくさんできればよいと思う。  
⇒情報提供はしているものの、そこまでにとどまっており、いただいた意見も含めて、これから具体について検討していきたい。